

おお大勝利

平成 24 年度山東サッカー部報第 2 号 (4 月 16 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

Y1第1節 山形中央に敗れる

4 月 14 日 (土) 18 歳以下の山形県リーグ 1 部、通称 Y 1 の第 1 節が県総合運動場第二運動広場 (人工芝) にて一斉に行われました。今年も昨年同様、8 月にミニ国体 (国体の地域予選) に臨む U 1 6 県トレセンチームが Y 1 の前期に参加。よって、計 9 チームで今年の Y 1 が行われます (ただし**前期のみ参加の県トレセンとの試合は勝ち点などが計算されないエキシビジョン・マッチ**)。昨年通り、Y 1 の 7 位、8 位が自動降格となり、1 位がプリンスの昇格決定戦に進む¹。ただし、(来年からプリンスが 1 リーグ制になる関係でプリンス 1 部にいるモンテにも今年 Y 1 への降格の可能性があり) モンテと日大山形の 2 チームに来年 Y 1 への降格の可能性があることから、2 チーム降格 (で昇格なし) の場合玉突きで Y 1 の 5 位～8 位まで Y 2 に降格します (1 チーム降格で昇格なしの場合は 6 位～8 位が自動降格)²。**安全圏は 4 位以内ということ**。奇数チームで前期はリーグが実施されるため、毎節どこかのチームが休みになる。第 1 節はプリンスから降格した羽黒が休み³。9 時から山商 V S 県トレセン (以下県トレ)、11 時から東海 V S 明新館、13 時から鶴工 V S モンテ B、15 時から山中央 V S 山東の試合が開催されました。

高 1 を主体とする県トレは、昨年の Y 1 の戦いを観ても、高校生としての戦いにまだフィットしておらず、夏までに徐々に調子を上げてくることが予想される。山商相手に歯が立たないのではと予想されましたが、9:30 頃天童第二に到着してみると、県トレが先制しているとのこと。「今年の県トレは一味違うのか」と期待を抱かせましたが、徐々に力の差が出てきたというか、山商のエンジンが徐々に温かくなつたというか、結局 3-1 で山商の逆転勝利。「**中学校段階でうまい**」というのと「**高校で活躍できる**」というのとは**根本的に異なるのではないか**、と思ってしまうますが、ともかく、県トレはこれから上げてくるでしょう。山商はベストメンバーだったでしょうが、まだ余力を残しているような印象を受けました。

第二試合は、黄金期を迎えた東海の圧勝 (5-0)、第三試合は、A の選手とは技術、(体と頭=判断の) スピードで劣っているものの、よく鍛えられている印象を受けたモンテ B の圧勝 (4-1) となりました。東海の戦力の充実ぶり⁴はわかっ

¹ 昨年は Y 1 で 1 位の日大山形が秋田 1 位の西目高校に昇格戦で勝ち、プリンスを決めました。

² 逆に、降格なし昇格あり、の場合は、Y 1 の 7 位も残留となります。

³ プレミアリーグ EAST に参加していた東北の尚志高校 (福島) がプリンスリーグ東北に降格したため、プリンスリーグ 2 部にて 5 位の成績の羽黒が玉突きで降格することになりました (プリンス 2 部の自動降格は 6、7、8 位)。

⁴ B チームに回るメンバーにも県トレセンの選手が含まれるような、選手層の厚さでも黄金期を感じさせます。

ていたことなので驚くに当たりませんでした。ボールを支配し続けるべく局面で弛まず三角形の布陣を作ろうとハードに動き続けるモンテBの選手には、感心させられました。

第四試合はいよいよ公立高校の雄の山形中央と、山形東との対戦。山形中央は昨年、2年生中心のメンバー構成だったためY1にて厳しい戦いを強いられましたが、今年は育ててきたメンバーが最高学年となり満を持して登場、といった趣のチーム。これまでの県外遠征でも、並み居る強豪チームをなぎ倒して自信をつけているとの噂。対する山東は、昨年Y1にて厳しい戦いを強いられたという点では共通するものの、選手権・県新人ではともに初戦で敗れる低迷ぶりで、冬季・春季の練習試合でもなかなか思うような内容・結果が得られず、「いまだ模索中」のチーム。少しずつ力をつけてきた実感はありますし、予想を覆してやってやろうという気持ちはありますが、自信と呼べるものはまだない。試合前、**とにかく最初15分守備的に戦うこと、精神的に後手に回って五分五分のルースボールを取りきれないなんてことがないように四分六分のボールも厳しい球際でマイボールにする意識をもつこと**を確認して選手をピッチに送り出しました。

試合が始まると、やはり山形中央ペース。ともに陣地の取り合いをするような、ダイレクトな（縦に速い）展開だが、山形中央の攻撃の選手が個々の力で上回っている。序盤サイドを崩され、二度決定機を許しますが、GKサカグチがファインセーブ！ **特に二度目のセーブは左手一本でボールを食い止めた「ビッグセーブ」**（T大山形のM川顧問⁵の言葉）！！ あそこ（序盤の段階）で1点でも入っていたら大崩れもあり得たので、チームとしては助かったプレー。**サカグチの高校サッカー生活のプレーの中で、最も素晴らしいプレーだったのではないのでしょうか。**その後、徐々に守り慣れてきて、大ピンチを作らせずにいたものの、前半終わり近く（35分過ぎ）でしょうか、クリアが短くなり山東ゴール前での混戦になったところをぶち込まれ、0-1で前半を折り返す。ハーフタイムはよく戦っているしよく声が出ていることを褒め、後半に送り出しました。後半の戦いは、序盤は前半同様山形中央の攻撃を受け止めていたのですが、徐々に山形中央のパスワークが速くなり山東の選手の足が止まり出し、終盤はいつ失点してもおかしくない展開に。結局、再び混戦から決められ、0-2で試合終了。**試合前、選手に「試合後一体感もって戦えた、と言える試合にしよう」と声をかけたのですが、個々にそして声を掛け合って集団で、粘り強く戦った熱い試合だったと思います！** このチーム、保護者の方・OBの方そして顧問や選手自身から、声が出ない、気持ちが前面に出ない、淡白だ、とこれまで批判されてきただけに、**勝てはしませんでした。が気持ちのこもった戦いに成長を感じることができました。**

次戦も熱い戦いをすべく頑張りますので、ご声援よろしくをお願いします。

4月21日（土） Y1第2節 VS 東海大山形 12:00キックオフ@山形商業

⁵ M川先生はしばしば数々の新語で地区内顧問を驚かせますが（気になった方は23年度の部報第3号を参照してください）、14日上山明新館戦のベンチにて、「そこは**トオボラ**でしょ（トオボラにパスすべきでしょう）」の発言あり。私は瞬間的に分かりましたが、皆さんは分かりますか？ このトオボラは新語と思われそうですが、2枚のボランチ（センターハーフ）のうちボールから遠いところに位置しているボランチのことと思われ。私は山東の選手に「遠いボランチ」と呼んで説明していますが、M川先生くらい言葉の魔術師になると、使う専門用語が違いますね。ちなみにM川先生は、数学の教師ながら中国の歴史にも造詣（？）が深いんですよ（私と同じく横山光輝ファン）。